

今日のシライ中

白井の愉快的な仲間たち

VOI.26

キタテハ

「今日のシライ中」に紹介されていた、オレンジに黒の斑点模様が美しい「キタテハ」。タテハチョウ系のチョウは、翅を閉じると枯葉に擬態したように地味なものが多いですが、それを広げれば、目の覚めるような美しさです。

ちなみに、私の大好きな「アケビコノハ」という蛾も、まさに枯葉そのもの。葉脈、葉の汚れ、破れ、穴まであいている、芸術的な擬態です。(アケビコノハは、ヤガ科の蛾です。)



さて、チョウ、蛾の翅には、「鱗粉」と呼ばれる粉がついています。この粉を顕微鏡で見ると、まるで屋根の瓦のようにきれいに重なっています。(ものすごい図鑑 モンシロチョウ で見ることもできますよ。) この粉があるおかげで、チョウたちは、雨をはじき、空中をひらひら飛ぶことができるのです。ですから、あまり、翅をもって捕まえないであげてくださいね。飛べなくなるわけではありませんが、かなり、飛行能力が落ちてしまいます。

さて、私たち日本人は、やれ「チョウ」はきれい、やれ「蛾」は気持ち悪い、等々、それぞれを区別しがちですが、外国では、それほど区別して考えないそうです。1年生の教科書に出てきた「クジャクヤママユ」は、「キアゲハ」同様に美しい「チョウ」として描かれていました。秋も深まり、寒くなれば、チョウの季節はいったんお休みです。夏型のチョウは冬を越さずに死んでしまいますが、春型のチョウは、さなぎのまま越冬し、翌春に羽化します。アゲハのところでも紹介しましたが、さなぎすら周りに溶け込み、目立たないよう工夫しています。どこをどうしたら、そんな工夫ができるのでしょうか？いえいえ、たまたまそうしたことのできた個体のみが生き残り、繁殖した結果です。ことほどさように、生物の世界は奥深く、不思議がいっぱいです。

さて、このところ、季節が一気に進み、急に秋らしくなってきました。あんなに賑やかに鳴いていた蝉の声は消え、秋の虫の音が響きます。「日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。」誰の、なんという作品の一節かな？

2、3年生、もちろん大丈夫ですね！清少納言の「枕草子」、「秋」の一節です。姿は見かけませんが、どんな虫が鳴いているのでしょうか？「秋」には「秋」の楽しみが待っているようです。